

2020年度

事 業 報 告

自 2020年 4月 1日

至 2021年 3月31日

公益財団法人 正 力 厚 生 会

〔がん患者支援事業〕 計 1422万6774円（予算 1978万5000円）

＜患者団体への助成＞（継続事業）

全国のがん患者会や支援団体を対象に一般公募で活動資金を助成する事業で、今回は31団体に助成した。単年度完結型の助成だが、新型コロナウイルスの流行で市民講座や「がんサロン」などの事業が開催困難となったため、申請があれば助成事業の期間を1年延長することを認めた。11月に22団体が延長を申請し、引き続き事業完了を目指して努力を続けている。

残る9団体は、講座のオンライン開催化などで事業を完了したところが多く、「オンライン化で全国から参加が可能になり、むしろ予定の定員を上回る参加者が集まった」といった報告も寄せられた。

（予算 824万5000円、支出 822万6774円）

＜医療機関への助成＞

2020年度は前年に続き、正しいがん情報普及を目指す国立がん研究センターの「がん情報ギフト連携プロジェクト」に500万円、帝京大学医学部の渡辺清高准教授が主導する「がんの在宅療養支援プロジェクト」に100万円を助成した。

「がん情報ギフト連携プロジェクト」は、図書館へがん情報の冊子セットを寄贈し、地域の拠点病院との連携を図って、図書館に正しいがん情報普及の窓口役を担ってもらう事業。一般からの寄付を基にした国立がん研究センターの「がん情報ギフト」事業の発展強化を目指している。

2020年度は大阪、三重を中心に近畿圏を重点地域として、冊子セットを図書館46館に集中的に寄贈。新型コロナウイルス流行を受け、拠点病院の相談員と図書館司書らが参加する連携研修会はオンライン開催とし、10月9日に112人が参加して開かれた。この様子は、11月に同じくオンライン開催された図書館総合展で1か月間、動画配信された。

三重県で予定した市民向けイベントは中止となったが、がんに関するパネルと書籍・冊子のセットを同県内7図書館で巡回展示した。同様の巡回展示は大阪府でも行われた。

「がんの在宅療養支援プロジェクト」では、全国で数多くのフォーラムや研修会を開催してきた。2020年度は、ウェブサイトで公開しているこれまでの発表事例の情報更新と補足を行っており、その一環で在宅療養経験者の体験談や医療関係者からの応援メッセージを募集した。2016年に発行した冊子「がんの在宅療養ガイド」

ウェブ版の内容改訂という位置づけとなる。集まった応援メッセージなどを掲載してサイトの改修が行われた。

(予算600万円、支出600万円)

<読響ハートフルコンサート> (継続事業)

がん患者やその家族の心を癒すため、読売日本交響楽団の楽団員を全国各地のがん診療連携拠点病院に派遣し、弦楽四重奏などを披露する事業。2020年度も一般公募により全国8会場を選定したが、新型コロナウイルスのため、全会場とも中止となった。病院改修などの事情で辞退した2か所を除く6病院は、2021年度に延期して開催することが決まった。新型コロナの状況次第で再延期にも柔軟に対応する方針。延期した会場の開催日程は以下の通り。

①	新潟県立新発田病院	2021年9月8日	新潟県新発田市
②	筑波大学附属病院	開催辞退	茨城県つくば市
③	長崎県島原病院	2021年10月14日	長崎県島原市
④	相良病院	2021年10月15日	鹿児島市
⑤	市立奈良病院	2021年9月28日	奈良市
⑥	聖隷浜松病院	2021年11月27日	浜松市
⑦	埼玉県立がんセンター	2021年11月10日	埼玉県伊奈町
⑧	徳島大学病院	開催辞退	徳島市

(予算554万円、支出0円)